

干支の年賀状作り

11月28日9時半から2時間にわたり、島立福祉ひろばにおいて、俳画便り同好会で勝野寿雄先生御指導のもとに、干支の年賀状作りの講習会が行われました。

平成27年の干支は「ひつじ」(未または羊)で、文字・図絵の先生直筆によるパ



小柴地区 勝野 寿雄さん作



平成27年1月1日現在

世帯数	2,816 世帯
男	3,445 人
女	3,603 人
総人口	7,048 人



ンフレットに基づき説明がありました。文字の書き方としては、篆書・隸書・楷書・行書・草書がある事、その中で篆書文字は羊の形から変化した文字で、年賀状に取り入れると面白があります。

絵も羊を写生した表現の仕方からマンガチックな表現迄、筆をとって描きながら説明されました。

字・絵共にこつがつかめると表現し易いとの教示があり、会員は仕上げるのが楽しみになった様です。

同好会では年賀状交換で、どんな賀状がくるかお互いに期待し合いました。

一部の地区では、屋外スピーカーが設置完了し、機器が動作しているか確認の為に夕方チャイムを放送しているそうです。

島立にも数カ所、屋外スピーカーが設置され始めていますが、まだ作動はされていません。

4月より松本市全地区で本格運用が開始される予定です。

※同報系：同時に複数の相手方に通報する無線系統

同報系デジタル防災行政無線の屋外スピーカーが、指定避難所や町内公民館などに設置され始めている事を、御存知ですか？

市民の皆さんに、災害時等の緊急・防災情報を、松本市役所より松本地区内に一斉に伝達するシステムを、平成24年度より、市の消防防災課の方で進めています。



「防災無線放送が始まります」



12月11日大庭公民館にて、AED(自動体外式除細動器)の使い方の講座が開かれました。AEDは、公共施設・病院・コンビニなどに多く置かれる、普及しましたが、いざという時に、使い方が分からない・触るのが怖いと思ってしまう使用しない事がある為、開催しました。講師は、松本病院に勤務し、救急看護認定看護師の飯ヶ濱実さん他2名にお願いしました。

AEDを使うには、救急車を呼んだりAEDを持って来てもらう人が必要なので、倒れている人を発見したら大声で助けを呼び、直ぐに心臓マッサージをする事が大切です。胸部を両手で強くシャンプーボトルを押す様にし、1分間に100回を目処に押します。1分マッサージが遅れると助かる見込が10%ずつ減っていくそうです。

AED使えますか？

天災が続いた平成26年、各地で緊急避難所、非常食料備蓄所などの整備が進められています。

島立でも26年秋には北栗の防災倉庫が設置されました。この倉庫は面積約11㎡のプレハブ倉庫で、公民館の庭続きに設けられ、9月14日に関係者が参列して竣工式が行われました。使わずに済むことが大切ですが、ここに非常用食料・資材などが備蓄され、地区の防災拠点になります。

また住民の防災意識の高揚、災害時の迅速な避難活動も物的条件整備以上に重要です。11月には住民の防災避難訓練が行われ、多数の住民が避難・消火・救命などの訓練に参加し、意識を高めました。



北栗の防災倉庫竣工

講座では、3つのグループに分かれて、発見からAEDを使う流れを人形を使って行いました。

シリーズ

島立地区の四季 ④



稲刈り

稲刈りは田植えと並ぶ稲作の中心的な作業で、昔は子供も総出で働き、稲架掛けして干した稲を脱穀機にかけました。近年はコンバインの普及で大半が機械化されましたが、自家用米は天日干しするという農家も多く、わずかですが昔の収穫風景も見られます。昔は11月の「こぼしやげ」と呼ばれた収穫祭に新米のご飯を神様に供え、家族も初めて新米を食べました。豊作に感謝し、新米を頂くという風習は厳格に守られていたのです。



小学校の運動会

秋晴れの下での運動会は住民の楽しみの一つで、昔は重箱を提げて我が子の活躍ぶりを見に行ったそうですが、今もカメラを片手に応援に行く保護者の方は少なくありません。種目で歴史のあるのは短距離走、男子の騎馬戦、女子のダンスなど、大正時代のプロگرامにもあります。競技で火花を散らすことは昔と変わりますが、荒い種目は少なくなり、美的表現に重点を置いた種目が多くなりました。



秋祭り

島立では昔は春・夏祭りが多かったそうですが、今は栗林・御乳・沙田の三大祭りは秋祭りです。神社には幟を建て、燈籠を飾り、家庭では玄関に家紋入りの燈籠を飾ります。神社ではそれぞれ神事に続いて花火や奉納芸能も行われ、住民が楽しみにしています。特徴的な神事では栗林・御乳の二社に伝わる「御布領」の神事などが挙げられます。祭りの招待客には赤飯や鯉こく、里芋の煮つけなどが振舞われるのが慣例になっています。

三の宮お茶会

11月5日に、三の宮公民館において、平成26年度二回目（一回目は10月）となる三の宮町会主催のお茶会が、22名出席のもと開催されました。

「老人クラブが消滅し、高齢者が集う機会が減少しているので、この機会に誘い合って参加してもらえたらうれしい」と町会長の挨拶がありました。ボランティアグループ手作りの漬物・煮物・そしてお菓子等、町会長はじめ男性の役員も手伝って各々配布して回るといふほほましい光景が見られました。つづいて、大月一夫さんによる余興が始まりました。ハーモニカに合わせて愛染かつら等を歌いながら片方の手で肩たたきをしたり、銭太鼓を持って振りながら東京音頭を会場全体で歌うという出しものでした。



交通安全祈願祭

りで大いに盛り上げました。「楽しかった、又来たいね。」という声も聞かれ、会は盛会のうちに終わりました。

今年も1月3日沙田神社において、新年恒例の交通安全全祈願祭が行われました。当日は昨年未よりの寒波の影響もあり、境内一面薄雪に覆われており普段とは違う、より神聖な雰囲気となりました。早朝より氏子の役員の方がたにより寒い中手際よく準備が始まりました。9時半より宮司さんの祈禱が始まり交通安全の祈願がされました。境内には自動車が行き交うため社殿に向かい整然と並び始め、宮司さんより一台一台お祓いをしていただきました。参拝の車が途切れなく続くなか、消防団の方も消防車数台を伴い訪れていました。年の初めに心を新たに今年一年の無事が成就されることを願います。

